

会報

獅子の如く

2025年8月25日
第40号 地域版
発行
獅子の如く編集部



発行責任者 木村 信彦
編集部 清水 美優
西片 里紗
監修 京都文化研究企画
協力 吉祥院六斎保存会

吉祥院六斎念仏継承

六斎念仏の歴史を紐解く

― 伝統文化・人権文化・継承 ― 吉祥院小学校で講演

「六斎念仏の歴史を紐解く」をテーマで職員夏季研修会が八月二十一日、吉祥院小学校で開かれた。

六斎念仏は高齢化、後継者不足が深刻化する中、長年伝統文化を継承する重要性を発信してきた石田房一



さんが講演した。

「伝統文化は地域社会の重要な要素を担い、伝統や習慣を継承する役割があり、少子高齢化や人口減少などにより、伝統文化の衰退が懸念されている」と伝統文化の現状と課題を話された。

六斎念仏は、平安時代に空也上人がはじめた「踊躍

念仏」を起源とする。

江戸時代に入ると、六斎念仏を行うには免許が必要となり、その

免許を与える権限は二つの

お寺が持ち、

どちらかのお寺から免許を受けたかによ

て、その傘下となる仕組みがあり、

空也堂系の芸能六斎と干菜寺系の念

仏六斎の二つの系統に形成された。

現在、吉祥院の

他、壬生、中堂寺、

嵯峨、千本、小山

郷など、十五箇所の地域で受け継が

れており、京都六斎念仏保存団体連

合会に加盟する六斎念仏が一括して

国の重要無形民俗文化財に指定され、

また国連教育科学文化機関、ユネス

干菜寺
↓
念仏六斎

鉦を主体に
念仏が
唱えられる
上鳥羽六斎など

空也堂
↓
芸能六斎

歌舞伎、能、狂言の
芸能の要素を
採り入れる
吉祥院念仏など

この無形文化遺産に登録された。

吉祥院地域には、

かつていくつもの

六斎講（組）あり、

互いに妍を競った。

菅原町六斎保存

会は、長らく六斎

念仏の奉納に関わ

ることが許されな

かったが、明治初

年頃、ようやく菅

原町で六斎保存会

（青年会／共親会）

を結成する。とは

いえ吉祥院天満宮

の舞台に立つこと

を拒絶されるなど、

難と向き合うことになる。

戦後、吉祥

院地域にも都

市化が進み、

かつての農村

型地縁社会が

変容を余儀な

くされる中、

菅原組以外の

六斎組は衰微

し、高齢化、

後継者不足な

どから次々と活動

停止に追いや

られた。

現在、菅原組が

唯一、吉祥院六斎

念仏の伝統を受け

継いでいる。

石田さんは、伝

統文化に関する情

報を発信する他、

六斎念仏の歴史的

意義を少しでも多

くの人に知って

もらうため、い

ろんな場所で

言及する。

次世代に六

斎念仏をつな

いでいくため

に立ち上げた子ども六斎会の目的は、芸能を継承するだけでなく、厳しい差別にあっても、六斎念仏の灯を消すことなく、つないできた先人たちの尊い精神をも継承する。

背景には、吉祥院地域の伝統文化として六斎念仏を核に据え、なおかつ人権をキーワードに取り組まれていることにある。

研修会の最後に「伝統文化は守るものと表現されがちだが、伝統文化は守るのではなく、つないでいくもの」と締めくくった。

（広報）清水美優

国の重要無形民俗文化財指定

（国連教育科学文化機関）

ユネスコ無形文化遺産

吉祥院六斎念仏

（国連教育科学文化機関）

ユネスコ無形文化遺産

吉祥院六斎念仏

（国連教育科学文化機関）

ユネスコ無形文化遺産

吉祥院六斎念仏

（国連教育科学文化機関）

ユネスコ無形文化遺産

吉祥院六斎念仏

（国連教育科学文化機関）

ユネスコ無形文化遺産

吉祥院六斎念仏

（国連教育科学文化機関）

ユネスコ無形文化遺産

吉祥院六斎念仏

（国連教育科学文化機関）

ユネスコ無形文化遺産

吉祥院六斎念仏

（国連教育科学文化機関）

ユネスコ無形文化遺産

吉祥院六斎念仏

（国連教育科学文化機関）

ユネスコ無形文化遺産

吉祥院六斎念仏

私は昭和二十三年七月生まれで、七十七歳の喜寿を迎えました。吉祥院小学校に入学した頃、楽しみにしていた「まつりの思い出」は六斎念仏でした。それも天神さん（吉祥院天満宮）



の舞台ではなく、八月二十五日の六斎奉納に向けた稽古を見るのが楽しみで、その稽古を見たくて毎晩のように友達十人位と見に行っていました。鉦や太鼓、笛、獅子舞などいろいろな演目がありますが、その中で一番好きだったのが土蜘蛛でした。土蜘蛛が放つ糸を取りに行くのに一生懸命で、よく保存会の人から「コラコ

ラ！稽古の邪魔になるさかい取りに行ったらあかん！早もどり」と叱られたものです。それほど広いな会館でしたので、蜘蛛の糸が飛散されずにかたまり（蜘蛛の巣）として壁に当たり、それを取り合うのが楽しかったです。翌日、取った蜘蛛の巣をみんなで見せ合い、たくさん持っているのが自慢で「オレが一

番や！」「ぼくが一番多い！」などと自慢し合っていました。当時は家庭にテレビがあるお宅が少なく、近所にテレビのあるお宅でプロレス中継（力道山）を見せてもらうのが楽しみでしたが、それよりも六斎念仏の稽古で鉦や太鼓、笛などの迫力ある演技を見てるのが楽しかったです。当時、六斎念仏をされていた山下登治さんのお宅へ久しぶりに伺い、六斎念仏の話をお聞きすると「わあーまた古い話やねー。六十五年前の事やしなあほとんど覚えてへんで」と言いながらもいろいろと六斎念仏の話をしていただきました。私が山下さんの六斎念仏を見ていたのは、二十歳代で新婚ホヤホヤの

頃で吉祥院高畑町（東条）に住んでいました。その当時、菅原町の六斎念仏が一番上手いと言われていましたが、あの演目は高畑町が上手い、あの演技はどこの町内が一番やと、各六斎保存会では自分たちの町内の六斎念仏が一番と誇っていたようです。

吉祥院地域には八つの町内で六斎念仏が行われていたと聞いていますが、後継者がいなくなり、次々と六斎念仏の数が減り、現在残っているのが菅原町の六斎念仏だけになりました。菅原町の六斎念仏には、この先も末永く続けられることを切に祈っております。最後に、高畑町の山下登治さんは、現在九十歳を超えておられ、膝の痛みを我慢して、六斎念仏の懐かしいお話を聞かせていただきました。本当にありがとうございました。

まつりの思い出

金四郎食堂

お食事処 有限会社 やまざき みのる 代表取締役 山崎 実さん

〒601-8341 京都市南区吉祥院前田町19-2 ☎ (075) 691-0815



吉祥院で愛され五十六年
金四郎食堂
吉祥院前田町に
あるお食事処「金四郎食堂」は、吉祥院図書館の北側の位置にあり、吉祥院天満宮からも近く、地域に愛されている食堂です。

金四郎食堂



内容もほぼ毎日変わるの、毎日通われても飽きないと人気です。サービス、さつまいも、だし巻き、小鉢、ご飯、味噌汁。その他、丼物、麺類、一品料理など多くのメニューが揃っています。



■営業時間
十一時～十四時半
十七時～二十一時

■定休日：日曜、祝日
※営業時間は異なる場合があります

金四郎食堂

御食事処

贈り中